

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	群馬県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	沼田市立沼田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	2	3	3	3	2	1	18	27
児童数	96	80	90	81	81	69	1	498	

研究の概要

1. 研究主題

基礎学力の定着と向上を目指して - 学習指導と評価の工夫を通して -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

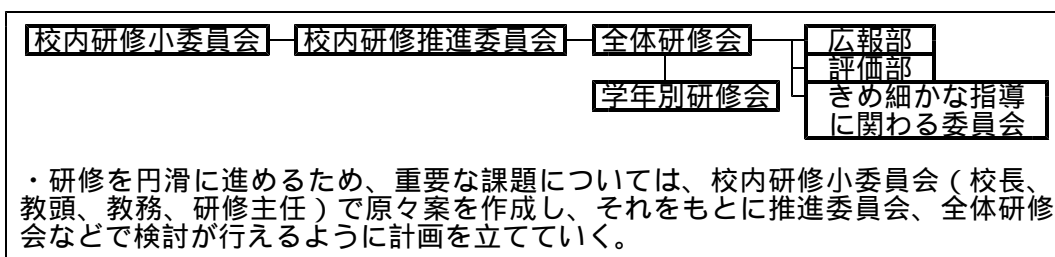
<ul style="list-style-type: none"> 算数(3~6年) 児童の理解等の状況に差が出やすい教科・学年であるため 家庭科(5・6年)、体育(1~6年)、音楽(3~6年)、図工(3・5年)、書写(3~6年)、社会(5年) 児童の技能等の状況に差が出やすく、教師や地域の人材の専門性を生かせる教科であるため

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	テーマ 基礎学力の定着と向上を目指して - 学習指導と評価の工夫を通して - 研究の見通し 指導体制の工夫や発展的・補足的な学習を通じた一人一人を伸ばす指導・評価の工夫等を行うことにより、基礎学力の定着・向上を図れるだろう。 研究の内容・方法 指導に生きる評価の工夫・改善 個に応じたきめ細かな指導方法・指導体制の工夫・改善 ・発展的・補足的な学習を通じた一人一人を伸ばす指導方法の工夫 ・算数科における少人数指導やTT指導の工夫・改善 ・教師の得意分野を生かした一部教科担任制(交換授業)の導入 ・保護者の授業参加および地域の人材活用 校時表・週時程表の工夫・改善
--------	--

平成16年度	テーマ 基礎学力の定着と向上を目指して - 学習指導と評価の工夫を通して - 研究の見通し 平成15年度に同じ 研究の内容・方法 指導に生きる評価の工夫・改善 ・評価規準・評価項目の改善・充実 ・自己評価・ポートフォリオ的評価の工夫 ・標準学力検査の分析と活用 個に応じたきめ細かな指導方法・指導体制の工夫・改善 ・発展的・補足的な学習を通じた一人一人を伸ばす指導方法の工夫 ・基礎学力の定着・向上を図るための朝の時間「すずかけの時間」の充実 ・少人数指導やTT指導等の工夫・改善
--------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- ・指導に生きる評価の工夫・改善については、学習のねらいにそって自己評価カードにチェックさせたり、授業でわかったことなどを文章表記させたりしていくこと、また、それをファイルなどに蓄積させていくことが、教師の評価を補助し、個に応じたきめ細かな指導に有効であることがわかった。
- ・算数の少人数指導・TT指導の工夫及び、発展的・補充的な学習を通した一人一人を伸ばす指導の工夫については、単元のねらいや児童の実態などに応じた有効な少人数指導の進め方、発展的な学習の内容及び位置づけ方などが明らかになってきた。その結果、よりきめ細かな個に応じた指導を行うことができ、基本的な内容の定着を図ったり、一人一人をより一層伸ばす機会を与えることができた。1月に実施した標準学力検査の結果も全国平均を上回り、昨年度より向上が見られた。
- ・教師の得意分野を生かした一部教科担任制（交換授業）については、教師の得意分野を生かして授業を行うことができ、児童が意欲的に学習に取り組み、成就感をもてるようになってきた。また、担任と教科担任が情報交換を行うことにより、児童を多面的に理解できるようになった。
- ・保護者の授業参加および地域の人材活用については、家庭科の被服や調理の分野を中心に保護者に協力してもらったり、書写や水泳、総合的な学習の時間を中心に地域の人材に協力してもらったりすることにより、よりきめ細かな個に応じた指導や専門性を生かした指導をすることができた。その結果、児童が興味・関心をもって意欲的に学習に取り組んだり、技能を身に付けたりすることができた。
- ・校時表・週時程表の工夫については、朝授業の時間を設定して弾力的な運用をしたり、その結果生まれた放課後の時間を利用して「すずかけの時間」を設定したりすることによって、問題解決的な学習を充実させたり、発展的な学習や補充的な学習などを行ったりすることができた。

2. 今後の課題

- ・指導に生きる評価の工夫・改善については、自己評価・ポートフォリオ的な評価について、今後も工夫・改善していくとともに、評価規準・評価項目などについて、信頼性や妥当性を検討するなど、改善を図っていききたい。
- ・少人数指導・TT指導等の工夫及び、発展的・補充的な学習を通した一人一人を伸ばす指導の工夫については、算数以外の教科についても研究をひろげ、より有効な少人数指導・TT指導等の進め方やよりきめ細かな支援の方法などを今後もさぐっていききたい。また、発展的な学習、補充的な学習については、教材開発をさらに行い、年間指導計画に位置づけるなど蓄積をしていききたい。
- ・教師の得意分野を生かした一部教科担任制（交換授業）については、学校規模や教員配置などを考慮し、時間割の編成や変更などに無理のない範囲で、教師の得意分野をより生かしていける交換授業などに今後も取り組んでいきたい。
- ・保護者の授業参加および地域の人材活用については、保護者や地域の人材と協力してもらつ目的や指導方針などについて十分打ち合わせをしながら、今後も継続し、人材の有効な活用を図っていききたい。
- ・校時表・週時程表の工夫については、指導計画や児童の活動に無理のない時間設定の中で、基礎学力の定着・向上を図るための時間「すずかけの時間」を取り入れるなど、校時表・週時程表の見直しをしていききたい。「すずかけの時間」については、内容の充実を図るため、学習内容や進め方の検討をしていききたい。

学力等把握のための学校としての取組

児童の意識調査（3～6年対象、9月実施）
目的...児童の少人数・T T指導、教科担任制や学習全般の意識を把握し、指導方法の改善に生かす。

各種学力検査
・教研式標準学力検査NRT（2・5年対象、4月実施）
・標研式観点別学力到達度診断CDT（全学年対象、国語・算数1月実施）
・教研式標準学力検査CRT（5年対象、2月実施）
目的...児童の学力を把握し、指導方法の改善に生かす。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・Webページで、研究内容、実践について公開
・研究成果普及資料として、年度末に『研究紀要』を管内市町村に配布予定
・平成16年度に授業公開予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無